

2021 年度

豊橋市青少年センター事業報告書

指定管理者

認定 特定非営利活動法人 愛知ネット

## I. 2021 年度の目標

指定管理 3 期目の初年度である。過去 10 年間の実績を基盤に、さらなる向上を図る。

### (1) 青少年健全育成の推進

→ボランティアスタッフ事業を立ち上げ、学生がセンターの運営・企画に参加し体験したり学んだりできる場を設定する。

→青少年団体の活動を紹介したり、近隣大学へセンターの利用を働きかける。

### (2) 魅力的な自主事業の実施

→利用者ニーズに即した事業を企画し、発信や応募方法を工夫する。

→新たな視点での取組みをし、シルバー人材を有効に活用したりする。

<数値目標>

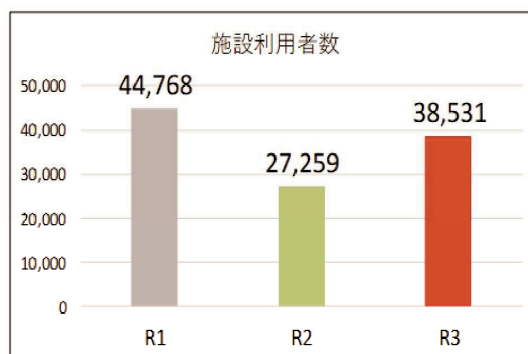
1. 利用者数 48,000 人 (2020 年度実績 27,259 人)

2. 講座等参加者数 1,500 人 (2020 年度実績 713 人)

## II. 2021 年度の実績

### 1. 施設利用者数

	R1 年度	R2 年度	R3 年度				
	実績	実績	目標	実績	達成率	他施設使用	合計
利用者数	44,768 人	27,259 人	48,000 人	38,531 人	80.3%	3,417 人	41,948 人



令和 3 年度の利用者数は 38,531 人で、達成率は目標の 48,000 人の 80.3%であった。前年度と比べると 11,272 人増で 141%となつてはいるが、この年は臨時休館はじめコロナによる利用制限が厳しく大幅な利用者減となっている。今年度はそれに比べて制限は緩和されていたが、それでも緊急事態宣言が出た 5 月、8 月、9 月、まん延防止が出た 1 月、2 月は利用の落ち込みが顕著であった。令和元年度がほぼ標準的な利用状況であり、例年 12 月まではコンスタントに利用があり、それ以降は減少する傾向がある。今年度も、厳しいコロナ対応が無い時期はまずまずの利用状況であった。

もちろん利用の減少をコロナ感染だけの影響と考えるのは適当でないかも知れない。今後も感染防止を徹底するとともに、コロナが落ち着くことを見越して、多くの方に利用していただけるよう、環境整備、興味が沸くような企画や情報発信に努めていきたい。

## 過去3年間月別利用者数

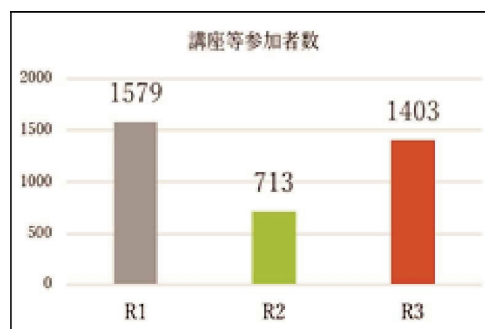
\*2021年度はコロナの緊急事態宣言等の変遷を明記

月	2019年度			2020年度			2021年度			
	センター利用	宿泊内数	前年比	センター利用	宿泊内数	前年比		センター利用	宿泊内数	前年比
4月	3,963	8	117.6%	488		12.3%	まん延防止	3,154	0	646.3%
5月	3,691	21	72.4%	31		0.8%	緊急事態	2,344	0	7561.3%
6月	4,540	12	108.2%	1,941		42.8%	まん延防止	3,237	0	166.8%
計	12,194	41	96.3%	2,460		20.2%		8,735	0	355.1%
7月	3,549	37	94.3%	3084		86.9%	嚴重事態	3,797	0	123.1%
8月	4,086	97	102.2%	2694	52	65.9%	まん延防止	2,635	0	97.8%
9月	3,838	36	82.9%	2897		75.5%	緊急事態	2,381	0	82.2%
計	11,473	170	92.6%	8,675	52	75.6%		8,813	0	101.6%
10月	3,712	0	82.3%	3543	6	95.4%	嚴重警戒	3,510	7	99.1%
11月	4,766	53	93.7%	3402		71.4%	警戒領域	4,328	0	127.2%
12月	4,034	0	102.5%	2614		64.8%	警戒領域	4,632	25	177.2%
計	12,512	53	92.4%	9,559	6	76.4%		12,470	32	130.5%
1月	2,790	13	93.3%	1,979		70.9%	まん延防止	2,510	0	126.8%
2月	3,574	10	101.4%	1,776		49.7%	まん延防止	2,323	0	130.8%
3月	2,225	0	47.0%	2,810		126.3%	まん延防止	3,680	15	131.0%
計	8,589	23	76.4%	6,565		76.4%		8,513	15	129.7%
合計	44,768	287	89.8%	27,259	58	60.9%		38,531	47	141.4%

## 2. 講座等参加者数

	R1年度	R2年度	R3年度		
	実績	実績	目標	実績	達成率
参加者数	1,579人	713人	1,500人	1,403人	93.5%

新型コロナウイルスの影響で中止した講座	
5月	青年講座夏「初級ジャズダンス」
5月	青年講座夏「卓球」
6月	地域歴史講座「この地域の人々とくらし」
8月	生活安全講座「スマホ・ケータイ安全教室」
9月	青年講座秋「ヨガ&スモールボール」
9月	青年講座秋「バドミントン」
9月	青年講座秋「フラダンス」
2月	目指せ日本代表講座「ベースボール5」
3月	布ぞうりづくり



令和3年度の講座等の参加者は延べ1,403人であり、前年度の約2倍であった。

年度当初計画した事業は、30講座、3派遣事業とセンターフェスティバルであった。加えてシルバー人材センターが企画した講座が15あり、あわせて49の講座・イベントを用意した。前年度は合計で28講座・イベントであったのと比べて大幅に講座数を増やした。ただ、コロナ感染対策のため全部または一部を中止せざるを得ない講座が9つあった。また、講座は予定通り開講しても、感染防止のために参加を見送った方も少なからずいたものと思われる。結果的には、思いのほか参加者が増えなかった。今年度からシルバー人材センターの企画も合わせて行った。これまでとは違った内容であり、活動の幅が広がり、新たな利用者の獲得につながった。

### Ⅲ 収支状況

2021 年度収支状況

単位：円

期	収入	支出	収支差額
第1四半期	10,453,470	9,547,410	996,060
第2四半期	10,451,781	9,872,291	579,490
第3四半期	10,418,025	9,640,324	777,701
第4四半期	10,407,251	9,952,200	455,051
公租公課		2,008,000	-2,008,000
合計	41,730,527	40,930,225	800,302

利用者へのサービスを低下させることなく、経費節減に努めた。具体的には消耗品等の無駄を排し、軽微な修繕はできる限り職員作業によって対応した。また、業者への依頼も内容をよく精査して交渉したり、業者を吟味したりすることによって支出を抑えた。

### Ⅳ まとめ

#### 1. 新型コロナウイルス感染による影響

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染による「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」などの対応策が次々と出され、利用時間の短縮、人数制限、自主事業の中止、利用者の自粛があった。

4月20日から10月17日まで、閉館時間を通常より1～2時間短縮した。その間、団体予約のキャンセルが延176回、それ以外の時期のキャンセルが68回あったため、合計では244回のキャンセルとなった。

また、主催事業は計画した49講座・イベントのうち9講座が、新型コロナの影響で全部又は一部を取りやめとした。

年間の利用者数は38,531人となり、目標の48,000人に対する達成率は80%であった。新型コロナが大きく影響したことは明らかである。一方、利用者もwith Coronaの生活様式が定着し、マスク、消毒、検温、換気などを確実にしながら、積極的に利用するようになっている。

月	開始	宣言等	閉館	制限	宿泊
4月	4/20	まん延防止	9時	無	×
5月	5/12	緊急事態	8時	50%	
6月	6/21	まん延防止	9時	無	
7月	7/12	嚴重警戒			
8月	8/8	まん延防止	8時	50%	
	8/27	緊急事態			
9月	10/1	嚴重警戒	9時	無	○
	10/18	警戒領域	10時		
11月	11/1	警戒領域			
12月					
1月	1/21	まん延防止			
2月	2/14	まん延(延長)			
3月	3/7	まん延(延長)			

#### 2 シルバー人材センターとの協働

今年度から愛知ネットとシルバー人材センターが協働して青少年センターの管理運営を担うこととした。シルバー人材センターが分担した主な業務は、(1) 日常の施設清掃、(2) 第三者への業務委託、(3) シルバー人材を生かした講座企画の3点である。

- (1) 日常の施設清掃については、前年度まで当センターの清掃をしていた方1名が継続して携わってくれたお陰で、留意点や手順など遺漏なく継続することができた。
- (2) 第三者への業務委託については、ほぼ昨年までと同じ業者に委託したため、施設の様子や経緯などについて理解しており支障なく行われた。シルバー人材センターの担当職員が頻りに足を運んで作業の状況等を確認していた。

(3) シルバー人材を生かした講座企画については、「昔あそび」「竹細工」などこれまでセンターでは行ってこなかった内容が多く、新たな来館者を開拓することができた。

青少年センターとシルバー人材センターは距離的に近く、担当者が何かあればすぐに来館することができるため、情報の共有や迅速な対応をすることができた。また、「愛知ネット・シルバー人材センター運営委員会」を開催し、課題や今後の予定などについての話し合い調整を行うことにより円滑な施設運営ができた。

### 3 利用者の利便性向上と情報発信

前年度途中からホームページからの講座申し込みを試行し、今年度から本格的な運用をした。メディア別の申し込み状況は右表のとおりである。申込み総数762件のうち、HPは336件で全体の44%であった。

愛知ネット企画に限れば、539件中HPを利用した申し込みは273件で51%となっている。年齢による差は

	メディア			
	HP	電話	窓口	合計
愛知ネット	273	248	18	539
シルバー人材	63	157	3	223
合計	336	405	21	762

あるが、インターネットからの申し込みが多くなっている。これからも利用者にとって使い易いツールを提供し、より多くの方がセンターの活動に関われるようにしていきたい。

また、これまで主催事業等の情報提供は広報、チラシや情報紙など紙媒体によるものだけであったが、今年度は中央棟1階のロビーで自作動画を流し、センターフェスティバルや青年講座のPRを行った。年末にはクリスマス動画を編集し、雰囲気盛り上げた。具体的な効果については検証が難しいが、立ち止まって見入る来館者が多くいた。

### 4 施設設備の充実

老朽化が進む施設のため、こまめな点検とメンテナンスが必要であり、簡易な修繕については職員で行っている。今年度は、やや大掛かりな修繕工事としては、避難口誘導灯、防排煙設備連動制御盤、分電盤開閉器、浄化槽送風機、研修室天井LED照明等の機器取り換えを行った。また、宿泊棟の和室8部屋の畳表の張替えや、運動広場のベンチの新設、花壇の2カ所設置など実施して利用者に少しでも快適に使ってもらえるよう環境整備に努めた。